

効率的な防除で 病害防除の手間とコストを削減!

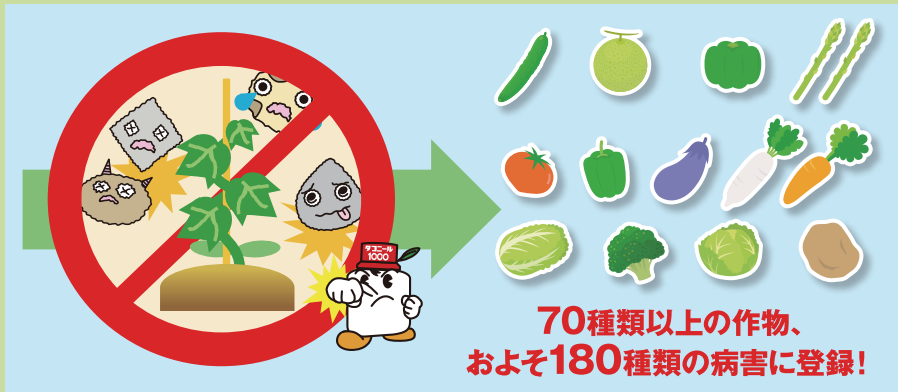


病気の予防と同時防除と

ダコニール 1000

農林水産省登録 第16823号

「ダコニール」、「ダコニール1000」は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。



70種類以上の作物、
およそ180種類の病害に登録!

ダコニール1000で発生前・初期からの予防散布をスタート。
以降の病気の感染圧を抑える体系防除にも有効です。
発生する病気や天候・生育状況等に応じて、他殺菌剤と組み合わせて体系防除しましょう。

散布回数増加

●きゅうり:散布回数12回

無人航空機散布

●ばれいしょ:疫病、夏疫病
●しょうが:白星病

適用拡大 しました



常温煙霧

●トマト:すすかび病、葉かび病
褐色輪紋病
●ピーマン:うどんこ病

【無人航空機散布剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数**	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数**
ばれいしょ	疫病、夏疫病	8	1.6ℓ/10a	7日	5回	無人航空機による散布	5回
しょうが	白星病	16	3.2ℓ/10a				

【常温煙霧剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数**	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数**
きゅうり	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	べと病	33	10ℓ/10a	前日	12回	常温煙霧	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回)
なす		うどんこ病				4回		4回
トマト		すすかび病、葉かび病 褐色輪紋病	3回			6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)		
ピーマン		うどんこ病	3回			3回		

【土壌灌注剤あるいは種子消毒剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数**	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数**
稲(稲育苗)	苗立枯病 (リゾブス菌)	500~1000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り500ml	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	2回	土壌灌注	2回
		1000~2000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ				
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3ℓ/m ²	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	2回	土壌灌注	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回)
トマト			1.5~3ℓ/m ²				6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)
レタス							
ブロッコリー	根こぶ病	3ℓ/m ²	定植時	1回	1回	3回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計2回)	
みずな	立枯病		は種時				
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	0.5ℓ/m ²	出芽揃い後 (出芽3日後から10日後まで)	1回	土壌灌注	4回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計3回)
わけぎ			セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ				3回(土壌灌注:1回、散布:2回)
にんじん	黒葉枯病	12	乾燥種子1kg当り60ml	は種前	1回	吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回(種子への吹き付け処理:1回)

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。

病害の同時防除に。



「ダコニール」、「ダコニール1000」は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

有効成分：テトラクロロイソフタロニトリル (TPN)・・・40.0%w/w 性状：類白色水和性粘稠懸濁液

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫 (摘採) 前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。表中「-」は、使用時期の制限がないことを示しています。

【散布剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期*	本剤の*使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数*	作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期*	本剤の*使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数*
きゅうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、褐斑病、灰色かび病、黒星病	1000	-	前日	12回	14回 (土壌灌注: 2回、散布、常温煙霧、くん煙及びエアゾル剤の噴射: 合計12回)	もりあざみ	ステムフィウム葉枯症	1000	100~300 ℓ/10a	30日	3回	3回
					4回	4回					14日	4回	4回
にがうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、斑点病、つる枯病	1000	-	前日	4回	4回	みょうが (花穂)	葉枯病、紋枯病	1000	100~300 ℓ/10a	*4	4回	4回
					3回	3回	みょうが (莖葉)	出蕾前			2回	3回 (土壌灌注: 1回、散布及び無人航空機散布: 合計2回)	
ズッキーニ	うどんこ病	1000	-	前日	5回	5回	カリフラワー	べと病	1000	100~300 ℓ/10a	出蕾前	3回	3回
こぼろ	うどんこ病	1000	-	前日	5回	5回	茶	網もち病、褐色円星病、黒葉腐病、灰色かび病、炭疽病、もち病、輪斑病、新梢枯死症 (輪斑病菌による)	700~1000	200~400 ℓ/10a	10日	1回	1回
ゆうがお	べと病、炭疽病、うどんこ病	1000	-	前日	4回	4回					セルリー	斑点病、萎縮炭疽病	1000
うり類 (漬物用、但し、ゆうがおを除く)	べと病、炭疽病、うどんこ病、つる枯病	700	-	3日	5回	5回	にんじん	黒葉枯病	1000	7日	5回	5回 (種子への吹き付け処理: 1回)	
かぼちゃ	べと病、うどんこ病、白斑病	700	-	前日	3回	3回	みつば	べと病	1000	根株養成期	3回	3回	
すいか	炭疽病、つる枯病	700~1000	-	前日	4回	4回	しゃくやく (薬用)	うどんこ病	800	45日	15回 (1年間に3回)	15回 (1年間に3回)	
べと病	うどんこ病	700	-	前日	2回	2回	みしまさいこ	炭疽病	500	30日	3回	3回	
メロン	うどんこ病	700	-	前日	4回	4回	らっかせい	褐斑病	500	14日	4回	4回	
トマト	疫病、葉かび病、輪紋病、炭疽病、灰色かび病、すすかび病、うどんこ病、褐色輪紋病	100~300 ℓ/10a	-	前日	2回	2回	食用ぎく	葉枯病	1000	100~300 ℓ/10a	14日	6回	6回
					4回	4回	食用ゆり	葉枯病			21日	2回	2回
ミニトマト	斑点病	1000	-	前日	4回	4回	ふき	灰色かび病	1000	30日	3回	3回	
なす	黒枯病、灰色かび病、すすかび病、うどんこ病	1000	-	前日	4回	4回	あしたば	黒枯病	1000	21日	2回	2回	
オクラ	葉すす病	1000	-	前日	5回	5回	てんさい	褐斑病	1000	30日	3回	3回	
ピーマン	斑点病、うどんこ病、黒枯病、炭疽病	1000	-	前日	5回	5回	うどん	黒斑病	1000	根株養成期	3回	4回 (散布: 3回、根株瞬間浸漬: 1回)	
はくさい	べと病、白さび病、白斑病、黒斑病	1000	-	7日	3回	3回	しそ	斑点病 (株枯症)	1000	150 ℓ/10a (株元散布)	前日	4回	4回
キャベツ	べと病、根朽病	1000	-	14日	2回	2回	りんご	斑点落葉病、モリア病、黒星病	1000	45日	3回	3回	
ひろしまな	白斑病	1000	-	28日	2回	2回	なし	黒斑病、黒星病	1000	前日	6回	6回	
なばな類 *2 (なばなを除く)	べと病、白さび病、白斑病、黒斑病	1000	-	60日	2回	2回	もも	灰星病、黒星病	1000	前日	2回	2回	
なばな	べと病、白さび病、白斑病、黒斑病	1000	-	出蕾前	3回	3回	ネクタリン	いちじく	2000	200~700 ℓ/10a	60日	7回	7回
だいこん	ワッカ症、白さび病、白斑病、炭疽病	1000	-	出蕾前	3回	3回	キウイフルーツ	果実軟腐病	500~1000	500	前日	5回	5回
レタス	灰色かび病	1000	-	45日	3回	3回	マルメロ	すず斑病	500	30日	4回	4回	
リーフレタス	べと病、すそ枯病	1000	-	14日	5回 (土壌灌注: 2回、散布: 3回)	5回	かりん	黒点病、ごま色斑点病、白かび斑点病	1000	45日	3回	3回	
たまねぎ	べと病、灰色かび病、白色疫病	1000	-	21日	2回	2回	パッションフルーツ	円斑病、疫病	1000	14日	6回	6回	
ねぎ	黒斑病、べと病、小菌核腐敗病、葉枯病、さび病	1000	-	7日	6回	6回	しきみ	炭疽病	700~1000	-	2回	2回	
わけぎ	黒斑病、べと病、小菌核腐敗病、葉枯病、さび病	1000	-	14日	3回	3回	たばこ	うどんこ病	700~1000	25~150 ℓ/10a	2回	2回	2回
にんにく *3	葉枯病、黄斑病、白斑病、黒斑病、さび病	1000	-	14日	2回	2回	花き類、観葉植物 (ばら、さく、チューリップ、ゆり、りんどうを除く)	うどんこ病、斑点病	1000	100~300 ℓ/10a	-	6回	6回
らっきょう	灰色かび病	1000	-	7日	6回	6回	ばら	黒星病、うどんこ病、斑点病	1000	100~300 ℓ/10a	6回	6回	
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病	1000	-	14日	3回	3回	きく	黒斑病、褐斑病、白さび病、うどんこ病、斑点病	1000	200~700 ℓ/10a	-	-	-
しょうが	紋枯病、白星病	1000	-	前日	4回	4回	チューリップ	褐色斑点病	1000	200~700 ℓ/10a	-	-	-
ばれいしょ	疫病	500~1000	-	14日	4回	4回	ゆり	葉枯病、斑点病	1000	-	-	-	-
やまのいも	夏疫病	1000	-	7日	5回	5回	りんどう	葉枯病、褐斑病	1000	-	-	-	-
やまのいも (むかご)	炭疽病、葉疫病、つる枯病	1000	-	30日	6回	6回	つつし類	褐斑病	1000	200~700 ℓ/10a	-	-	-
				45日	6回	6回	西洋芝 (ペントグラス、パーミューダグラス)	ヘルムントスポリウム葉枯病、葉腐病 (ブラウンパッチ)	500~750	1ℓ/m	発病初期	8回	8回

- *1 うり類 (漬物用) に含まれる作物: 赤毛ウリ、食用ひょうたん、食用へちま、しるしうり、漬物用すいか、漬物用まくらうり、漬物用メロン、とうらぎ、はやとり、ゆうがお ● 漬物用以外のまくらうりには使用できません。
- *2 なばな類に含まれる作物: あさまこな、あすこ、アレック、おおさきな、太田かぶ、オータムポエム、大野菜、大野菜、かいらし、かきな、勝山水菜、くきたな、ケールココロ (なばな栽培)、こうさいたい、こまつな (なばな栽培)、さいしん、三景雪菜、四川児菜、たべたい菜、チーマデラバー、チンゲンサイ (なばな栽培)、チンゲンルッコラ (なばな栽培)、摘菜花、つばみな、なばな、のらぼう菜、博多雪菜、はくさい (なばな栽培)、はたけな (なばな栽培)、はなっこり、みずかけな、めいけな
- *3 葉にんにく、にんにく (花茎) には使用できません。

*4 みょうが (莖葉) への使用時期: みょうが (花穂) の収穫14日前まで 但し、花穂を収穫しない場合は開花期終了まで。

△ 効果・薬害等の注意

- 使用前に容器をよく振ってください (沈殿)。
- 石灰質剤とは混用しないでください (分解)。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - ① 散布は各散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ② 散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④ 散布薬液の飛散によって動物及び自動車の塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ⑤ 散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄液は安全な場所に処理してください。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- スプレッドマシン剤及びホセセル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加えてください (凝集沈殿)。
- 稲 (箱育苗) の緑化中に使用する場合は、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意してください。育苗箱から排水液が漏れしないよう注意してください。
- りんごに使用する場合は、コールドンの後代品種 (つがる、世界一、ジョナゴールド) には使用しないでください (薬害)。落花後20日間は散布しないでください (薬害)。
- なしに使用する場合は、二十世紀以外の品種には使用しないでください (薬害)。また、二十世紀でも7月以降に使用しないでください (薬害)。
- 有袋栽培のものに使用する場合は、除袋直後の散布はさけてください (薬害)。
- いちじくに使用する場合は、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさけてください (薬害)。
- ねぎ及びわけぎに土壌灌注する場合は、発芽後から出芽直後の処理はさけてください (生育抑制)。
- レタスに使用する場合は、高温期の灌注はさけてください (生育遅延)。

- しそに使用する場合は、葉にからならないよう株元に散布してください (汚れ)。
- 常温煙霧として使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - ① 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあつては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - ② 煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど煙霧が作物体に直接当たらないよう注意してください。
 - ③ 作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上閉鎖してください。
- 花き類に使用する場合は、花卉の着色期以降や収穫直前の散布はさけてください (薬害・汚れ)。
- 芝に使用する場合は、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に黄変または褐変の薬害を生ずることがあるので注意してください。
- 使用量・使用時期・使用方法を守ってください。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

- ☞ 洗い流し、洗眼・うがいをして衣服を換えてください。作業時の衣服等は他と分けて洗濯してください。
- かぶれやすい人は作業に従事しないでください。施用した作物等に触れないでください。
- 糞葉にからならないよう注意してください (蚕害)。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用区域に囲いや立て札をたて、使用中及び使用後 (最小限) の当日に関係者以外は立ち入らせないでください。小児、人畜等に留意してください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後入室してください。

- ☞ 魚毒性等... 水産動物 (魚類) に強い影響を及ぼすおそれがありますので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意してください。養殖池周辺での使用はさけてください。使用した苗は糞魚田に移植しないでください。移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 水産動物 (甲殻類) に影響があります。河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整し、使いきってください。散布器具、容器の洗浄水は、河川等より流さないでください。空容器等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 漏出時は、保護具を着用し、布・砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 使用の際は保護クリームをつけ、農業マスク、不浸透性手袋、不浸透性風通し服を着用してください。作業後は直ちに身体を保管... 密栓し、直射日光を避け、食品と別けて冷涼な場所に保管してください。

- ラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く場所には置かないでください。●空容器は圃場などに放置せず3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

この印刷物の記載内容は2022年6月末日現在のものです。

2022年6月末作成 (東宣)

ダコニール普及会